Living the LOTUS
Buddhism in Everyday Life
12
2017
VOL. 147

開祖随感

仏さまのはからい

今年も無事に年の暮れを迎えさせてもらえましたが、景気の停滞や、天災、病気などで、素直に「無事、この一年を過ごせました」と言えない方もおられるかもしれません。けれども、その苦労の多かった一年を、どう受け取るかが大事だと思うのです。仏さまは私たちのすべてをわが子として、「必ず私が守ってあげます」とお約束くださっています。そのお言葉を、信じきるのです。

この一年、みなさんがどのような苦しみに遭(あ)い、どうがんばってきたか、そこから立ち上がるみなさんの懸命な努力を、仏さまはいつも見守ってくださっています。仏さまは、わが子がそれだけの力を具えているのを、信じきっておられるのです。

親が子どもを強く育てるために、その願いとは違うように見えるものを与えることがあるように、仏さまは、いま私たちにいちばん必要なものをお与えくださいます。

安穏無事(あんのんぶじ)とは、なにごとも起こらないことではなく、どんなことが起ころうと、それを乗り越える力を具えていることです。非情の試練とみえることが、その力をつけてくださる仏さまのおはからいだったと分かるときが、必ずきます。

(『開祖随感』9　P. 300-301)

Living the Lotus
2017年12月号（Vol.147）

【発行】立正佼成会 国際伝道部
〒166-8537　東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F
Tel: 03-5341-1124
Fax: 03-5341-1224
E-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 齋藤高市
編集チーフ: 金尾江利子
校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之
編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼脇祖によって創立された、法華三部経を所依の経典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。
現在は庭野日鑛会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life（法華経を生きる～生活の中の仏教）というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。

会長法話

「型」を身につける

立正佼成会会長　庭野日鑛

「型」は方便

柔道や剣道などのスポーツ、また芸術や芸能の道で、手本となる体勢や動作のことを「型」といいます。

ただ、そのような世界に限らず、私たちの日常生活における身近な所作にも「型」というものがある、と私は受けとめています。

たとえば、約束した時間を守る、朝、家族に「おはよう」のあいさつをする、はきものをそろえる、呼ばれたら「はい」の返事をする所作を「型」として身につけ、日々実践することが大切だと思うのです。

ちなみに「所作」とは、仏教で「身と言葉と心の三つのはたらきの現われ」をさします。つまり私たちは、行ないや言葉をとおしてなんらかの心を表現しているわけです。

では、その心とは何か。どのような心を「型」として身につけることが大切なのか――結論を先にいえば、思いやりや慈しみの心にほかなりません。思いやりや慈しみを体現し、それを「型」として日々実践することによって、私たちは慈悲の心をさらに深く胸に刻みつけていくのです。

生活のスタイルやリズムという意味では、仏道を歩む私たちにとって合掌・礼拝や朝夕の読経供養も大切な「型」の一つです。そうした実践も、思いやりや感謝の気持ちを身で示しつつ、そのことをとおして「常に思いやりと感謝の心で生きる自分」になる、日々の大切な精進なのです。

「型」を身につけていれば、たとえ少々、心が乱れても、すぐに思いやりや慈しみの心に立ち返れます。その意味では「型」は「方便」ともいえますが、しかしそれは即、思いやりや慈しみという「真実」に直結するものです。

「型」は無我の実践

思いやりや慈悲の心が、日常生活での「型」の根底をなすとすると、その現われとしての所作・行ないに「これでなければならない」といった決まりはなさそうです。この世に一人として同じ人はいないのですから、思いやりや慈しみの心を反映した「型」も、個性に従って多様であるのが自然といえるでしょう。また、読経供養は正座が基本といわれても、膝が痛くて正座ができない人もいます。それは「型」を外(はず)れる所作かといえば、そうではないはずです。仏教に「一即多(いちそくた)・多即一(たそくいち)」という言葉がありますが、根底となる思いや願いを忘れないことが肝心なのです。

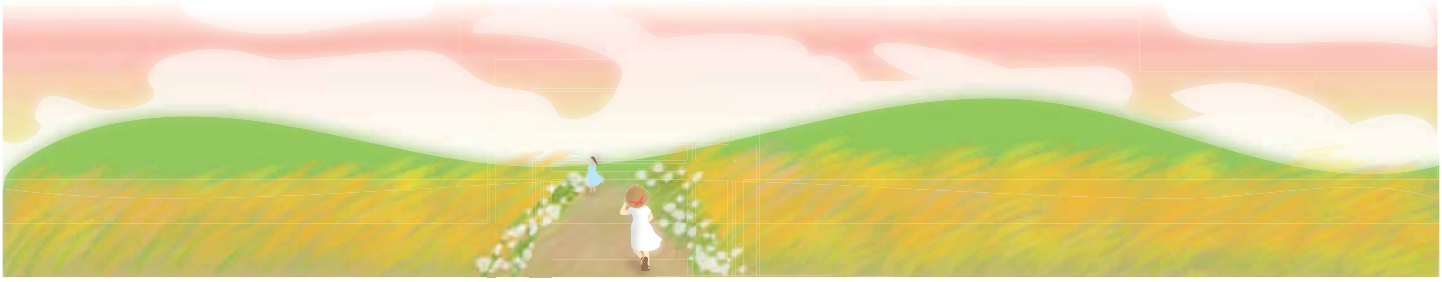
その意味では、仮に個性の数だけ「型」があるとしても、自分勝手な「型」は、「型」とはいいません。むしろ、「自分の思いどおりにしたい」というわがままな心を抑(おさ)えるために「型」があるといえるのです。

家族でも知りあいでも、何かのはずみで、顔も見たくない、口もききたくないというときがあると思います。その気持ちのまま朝、行き合ったならば、つっけんどんな態度をしてお互いに不愉快になります。ところが、合掌・礼拝や「おはよう」のあいさつを「型」として身につけていると、「顔も見たくない」という「我(が)」が、その「型」によってとり払われて、自然に「無我(むが)」の状態になれます。そのあいさつが調和をとり戻す一歩となり、またあいさつをした人の心は、しないよりもずっと穏(おだ)やかであるはずです。

「型どおり」と聞くと、変化や工夫がないように思いますが、「型」に従って「そのようにしなさい」と、いわば問答無用(もんどうむよう)で実践する機会は、自分の都合を大切にしがちな私たちが、無理なく「無我」になれる瞬間でもあるのです。

本会の法座や読経供養、あるいは「まず人さま」の実践も、それをつづければ仏さまのような慈しみ深い人になれるという「幸せの方程式」として、本会の歴史を支えてきた大切な「型」であると思います。

（『佼成』2017年12月号）



3つの試練から学んだ本当の慈悲

スリランカ教会
ダヤ・マダナヤケ

この体験説法は、2017年6月4日に行なわれたスリランカ新道場入仏落慶式で発表されたものです。

みなさま、お願いいたします。

はじめに、新道場入仏落慶式、まことにおめでとうございます。私はダヤ・マダナヤケと申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は1955年5月11日、スリランカの南西部に位置するケガル県のマクラ村で生まれました。父はお米を栽培する農家でした。母は父を手伝いながら、自宅用の芋などを栽培していました。私はダヤ家の長女で下には妹と弟が生まれ、3人は一緒に育ちました。

私が育った村は大きな木が家の目印としてあるだけで私有地を区切る塀などはありません。川遊びやブランコをしたり、マンゴー、カシューナッツ、ランブータンなどを拾い集めたりしながら思いっきり遊びました。

私の家では庭に小さな柱を建ててお社を作り、そこに仏さまをお祀りして、朝夕にお花を摘んで皆でお供えをしていました。そのような信仰に篤く自然に恵まれた環境で私は育ちました。小学5年生の時、スリランカ全土で行なわれた統一試験に合格し、レベルの高い学校で学ぶチャンスを得ることが出来ました。

入仏落慶式で説法するダヤさん

その結果、家を出て学校の寮で生活することになりました。子どもだった私にとって11年間一緒に暮らしてきた家族と離れるのは寂しいことでしたが、次第にその寮生活にも慣れていきました。私たち寮生は、毎日全員で学校内にある仏さまの前でお経をあげ、ヴェサックとポソンポヤデー（満月の日）にはお寺に参拝して瞑想の修行をしました。そのような学校生活が数年続き、17歳になった頃、学校の運営管理のために一人の公務員の男性が着任しました。しばらくして私はその方と交際するようになり、私が21歳の時、結婚しました。

私たちは、私の実家の近くに住み、夫はケガル県の教育省で働き、私は専業主婦になりました。幸せな日々が続きました。翌年の1977年に長男が生まれ、その翌年には、夫の転勤のためにポロンナルワ県に引越をし、家族3人の新しい生活が始まりました。

そのポロンナルワで、最初の大きな試練が私たちを待ち受けていました。ある日の夜更けに、地域一帯がすさまじい風雨に襲われたのです。屋根瓦が飛ばされ、マンゴーの大木が我が家に倒れてきました。家の中はメチャクチャな状態で、私は1歳の息子をシーツにくるみ夫と外に出ました。強風でまともに歩くことが出来ず、息子を抱えながら這うように逃げました。パン工場に逃げ込むと、そこには80人くらいの人がビッシ

リと身を寄せ合って避難していました。みんなびしょ濡れのまま朝まで座る場所もない状態で、風雨が止むのを待ちました。朝、明るくなって外に出てみると、自分の家がどこなのかもわからないほどヒドイ状態でした。倒れた樹木が家を直撃し、その下敷きになって亡くなった方々もいました。私たちは着の身着のままの状態でしたが、3人とも怪我がなく無事だったことが本当にありがたく思えました。何もかも失った私たちでしたが、とにかく夫婦で力を合わせ、一生懸命生きる努力をしました。

災害に遭った2年後の1980年、ようやく生活が立ち直りつつあった頃、2つ目の試練が訪れました。公務員による大きなデモ行進に参加した夫が、それが原因で職を失ってしまったのです。夫が失業した4日後には、2人目の息子が生まれました。わずか65ルピーが私たちの全財産でした。夫の毎月の給与で生活をしていた私たちの家計は行き詰りました。友人、親戚、知人、お坊さまなど、さまざまな方たちに生活を支えていただきました。しかし、夫がいつ職に就けるのかまったく見通しが立たず、またいつまでも友人や親戚の支援に頼るわけにもいきません。私たちは生活費を得るために、いろいろな仕事をしました。

まず、私たちは、住んでいた家の2部屋を人に貸すことにしました。またお弁当を販売したり、野菜を作って売ったり、鶏を飼って卵を売ったりしました。また稲作農家の手伝いに行き、お米をもらったりしながら、とにかく、働いて、働いて、さまざまな方法で収入を得る努力をしました。そうやって生活をつないでいくうちに、有り難いことに、夫がポロンナルワ県の地区幹事の事務所で働くことが出来るようになりました。私も、どこかに勤めたほうがいいと思い、夫と同じ事務所で事務員として働くようになったのです。その2年後、三男が誕生しました。

2つの大きな苦しみを家族全員でようやく乗り越え、1996年、夫は昇格にともなって別の勤務先に異動しました。ところが自宅から遠く離れた職場への通勤が始まると、夫が体調を崩すようになってきたのです。それが3つ目の試練の始まりでした。ある日、夫は職場で痙攣を起こして倒れました。その後、眠っている間も痙攣の発作を起こすようになりました。夫の病気により、私と3人の子どもたちは、経済的にも精神的にも苦労することが多くなりました。夫はわけもなく怒りを表すようになり、私や子どもたちを怒鳴りつけたり、私たちを屋外に閉め出したり、勉強中の子どもたちの本や洋服を外に投げ捨てたりするようになりました。まるで人が変わってしまったようになったかと思うと、時には以前のやさしい夫に戻り、子どもたちを遊びに連れていったり、お土産を買ってきたり、読書をしたりするのです。こうした夫の異変には家族全員が驚かされるばかりでした。私にはまだ我慢できることでも、子どもたちにとっては精神的に良くないことはわかっていました。

私は子どもたちに「私たち家族の問題は家族みんなで解決していくこと」「今あなたたちに出来ることは、一生懸命に勉強して統一試験に合格すること」「お母さんはお父さんの看病をして、お父さんを守っていく」ことを伝えました。子どもたちは私の言葉を受け入れ、本当に一生懸命に勉強をして試験に合格してくれました。そして、私自身も職場の昇格試験を受け、合格することが出来ました。夫の病気も、少しずつ快方に向かっていきました。辛い状況に涙を流しながらも、時には安心感を味わえるようにもなっていました。

しかし、2000年にシンハラの正月を夫の実家や私の実家で楽しく過ごし、家に戻った日の夜中、夫は発作を起こし、病院で亡くなったのです。49歳でした。夫の3か月の供養を済ませたあと、私は強いストレスによって倒れてしまいました。その後私は、これから人

生をどう生きていったらいいのかを改めて考え、大きな決心をしました。それは「子どもたちのためにも再婚はしない」「より良い仕事が出来るように勉強をする」というものでした。私は学位を取るために大学に通いました。

公務員としての約30年間、私は、母親の役を果たしながら精一杯働きました。その間、子どもたちも懸命に努力して勉強をし、やがて結婚をし、孫も生まれました。

退職後、私はクスマさんのお導きを受け、2014年、立正佼成ダルマ財団の会員になりました。初めてポロンナルワの道場を訪ねたとき、金色の仏像と楽器のような鐘と木鐘を目にして「ここは一体、どういう所なのだろう?何か怪しいところに来てしまったのかもしれない」と不安に思いましたが、クスマさんの人柄を知っていたので彼女を信じることにしました。

私は市役所の代表として、ポロンナルワ地区の上座仏教や僧侶の保護を目的に市役所が主催する協議会に、これまで何度も参加してきました。そこで立正佼成ダルマ財団について調べたところ、きちんと政府に登録され、ルールを遵守している仏教団体であることを知りました。立正佼成ダルマ財団では、私たちのような一般の在家仏教徒が、日常生活を送りながら、人さまの悩みや苦しみに共感し、人さまに少しでも幸せになっていただくためにどのような菩薩行を「したらよいか教えて下さっています。私は立正佼成ダルマ財団のパンフレットを読み、コロンボやタイのバンコクで実施されたセミナーに参加しながら、立正佼成会の教えについて学ばせていただきました。

現在、私は家庭拠点長のお役をいただき、自宅で家庭拠点法座を開いています。そこには、私の両親、息子家族、親戚、ご近所をはじめ多くの方々が参加してくださっています。教会長さんやパーシー支部長さんたちも来てくださいました。この家庭拠点の法座では次のことを学び実践しています。1. お寺とお坊さまを大切にすること、2. 満月の日には、お寺に行って信仰を深めること、3. 真理と自分が一つであることを自覚すること、4. 菩薩行を実践しながら人さまを正しい道にお導きすること、5. 自分のなかに、仏さまのいのち、真理を感じることです。

そのように立正佼成ダルマ財団から学んだ教えのお陰さまで、私が今までの人生で受けた3つの大きな試練は、仏さまからの尊いプレゼントだったのだと受け取れるようになりました。そして、これまでの自分の人生は最高の人生だったと自覚出来るようになったのです。それも、人生のさまざまな苦労を通して、苦しんでいる人を思う「慈」の心と、辛さや苦しさを分かち合う「悲」の心を学ばせていただけたからだと思います。そうした経験のお陰さまで、私は多くの人をお救いする智慧をいただきました。その智慧を活かし、これからの人生を通して、目の前で悩み苦しむ人を救っていく菩薩行を精一杯させていただくことを、今日、ここで、お誓いさせていただきます。

最後に、両親に、そして夫と私の間に生まれ苦しみを分かち合ってきてくれた素晴らしい子どもたちに、心から感謝いたします。み仏さま、みなさま、まことにありがとうございました。

三人法座で自分の体験を語るダヤさん（奥）

Living the LOTUS

The 7 Parables of the Lotus Sutra

三車火宅の譬え

妙法蓮華経 譬諭品第三

あるところに、長者の大きな家がありました。その家には、長者の子どもたちや召使いなど、たくさんの人が住んでいましたが、建物は荒れ果てていました。ある日、突然家が火事になりました。中にいる子どもたちは気づかずに遊んでいます。外にいた長者は、大急ぎで家に戻って大声で注意しますが、遊びに夢中な子どもたちは、その叫び声にも気づきません。

長者は、「子どもたちを何か机のようなものに乗せて外に連れ出そうか」と考えますが、「途中で誰かが落ちてしまってはいけない」と思い直します。火の恐ろしさを説明して状況に気づかせよう、と試みますが、子どもたちは見向きもしません。そこで、長者は最後に、「方便を使って子どもたちを救うしかない」と考えます。子どもたちが好きな羊、鹿、牛の車が外にあることを知らせたのです。

子どもたちは、燃えさかる家から、自らの意志で一つしかない狭い門をくぐって、ようやく出てきました。長者は、子どもたちの無事をたいへん喜びました。子どもたちは、口々に「さっき言っていた羊、鹿、牛の車をください」とせがみます。すると長者は、それよりもっと大きな、もっと素晴らしい大白牛車という車を、みんなに平等にくださったのでした。

このお話の中の、長者は仏さま、子どもたちは私たちの姿です。荒れた家は、私たちの住む世界のあやうさを表しています。そこに火事が起こります。火事とは、人生のあらゆる苦しみのことです。それはいつか突然におそってくるのですが、私たちはそのことを知らずに、自分の欲にとらわれているのです。

仏さまは、私たちを救い出そうと、一心に願われています。逃げ出せる門は狭く、ただ一つしかないのです。そこを抜け出るには、仏さまの願いに私たち自身が気づき、自分の意志で門をくぐるしかないのです。仏さまが、何か机のようなものに乗せて連れ出そうとしても、本人が自らの苦に気づいていなければ、救いの手からこぼれ落ちてしまうかもしれません。そこで、仏さまは、まずは苦しみに気づかせようと力を尽くして伝えますが、私たちは気づかないのです。仏さまの顔を、チラリと見るのですが、心から教えを聞こうとしません。

仏さまは、いよいよ最後の手段として、羊の車や鹿の車、牛の車を私たちに示されます。「自分に合った教えから学んでいけばいいのだよ」と教えられ、私たちは初めて教えに心をひかれるのです。

燃えている家から、自分の意志で走って逃れ出たということは、私たちが自ら修行をした、ということを指します。しかし、まだ自分が救われたことには気づいておらず、自分の望んだ乗り物が欲しいという、現実の願いでいっぱいです。そこで、仏さまに心から願いを伝えたとき、思いがけなく、大白牛車という、最高の悟りを、みんなが平等にいただくことができました。自分に合った修行を重ねていけば、だれでも仏の悟りを得ることができるのです。

仏さまは、私たちをかわいいわが子としていつも心配し、苦しみから救おうとしてくださっています。本当に、この世は苦しみに満ちていて、火のついた家のようなものです。仏さまは、そこに自ら飛び込んで、私たちみんなが共に仏になる道を示してくださっているのです。

Special Column

Greetings from Rev. Mizutani

6年間、本当に有り難うございました。

この度、本部の役職定年制度に基づき、私は国際伝道部長のお役を離れることになりました。6年間にわたって、皆さまには本当にお世話になりました。この場をお借りして心より感謝を申し上げます。私にとって、本当に幸せな毎日でした。なかでも世界各地で皆さまと出会い、法の喜びを分かち合った感動は、忘れられません。

そしてこの度、南アジア伝道区長兼バンコク教会長のお役を拝命いたしました。立正佼成会の教えは、本当に有り難い教えです。新たな地で、私はこの有り難きみ教えを、一人でも多くの人にお伝えさせていただきます。楽しみです。

新しい国際伝道部長さんは齋藤高市さんといいます。彼は私の親友であり、また優れた布教者です。彼はニューヨーク教会長などこれまで20年以上にわたって国内外で教会長を務めてこられました。彼は体もハートも大型です。彼のリーダーシップのもと、今まで以上に世界に教えが広まっていくものと大いに期待しています。

皆さま、どうぞこれからもお元気で。そして命ある限り、法の喜びを一人でも多くの人にお伝えしてまいりましょう。6年間、本当に有り難うございました。

水谷 庄宏

齋藤部長（国際伝道部）、水谷伝道区長（南アジア伝道区）

こんにちは！よろしくお願いします!!

12 月 1 日付で国際伝道部長を拝命しました齋藤高市と申します。先月まで息子の侑助が国際伝道部のスタッフとしてお世話になりました。 親子ともども、 どうぞよろしくお願いいたします。

諸宗教協力・対話活動に 16 年間携わった後、 水原（現在の新発田）、NY、 墨田、 広島の地で教会長をさせて頂いてきました。教会長としての 19 年間は、 戦争やテロの犠牲となられた方々の慰霊と平和の大切さを意識させられた年月でもありました。

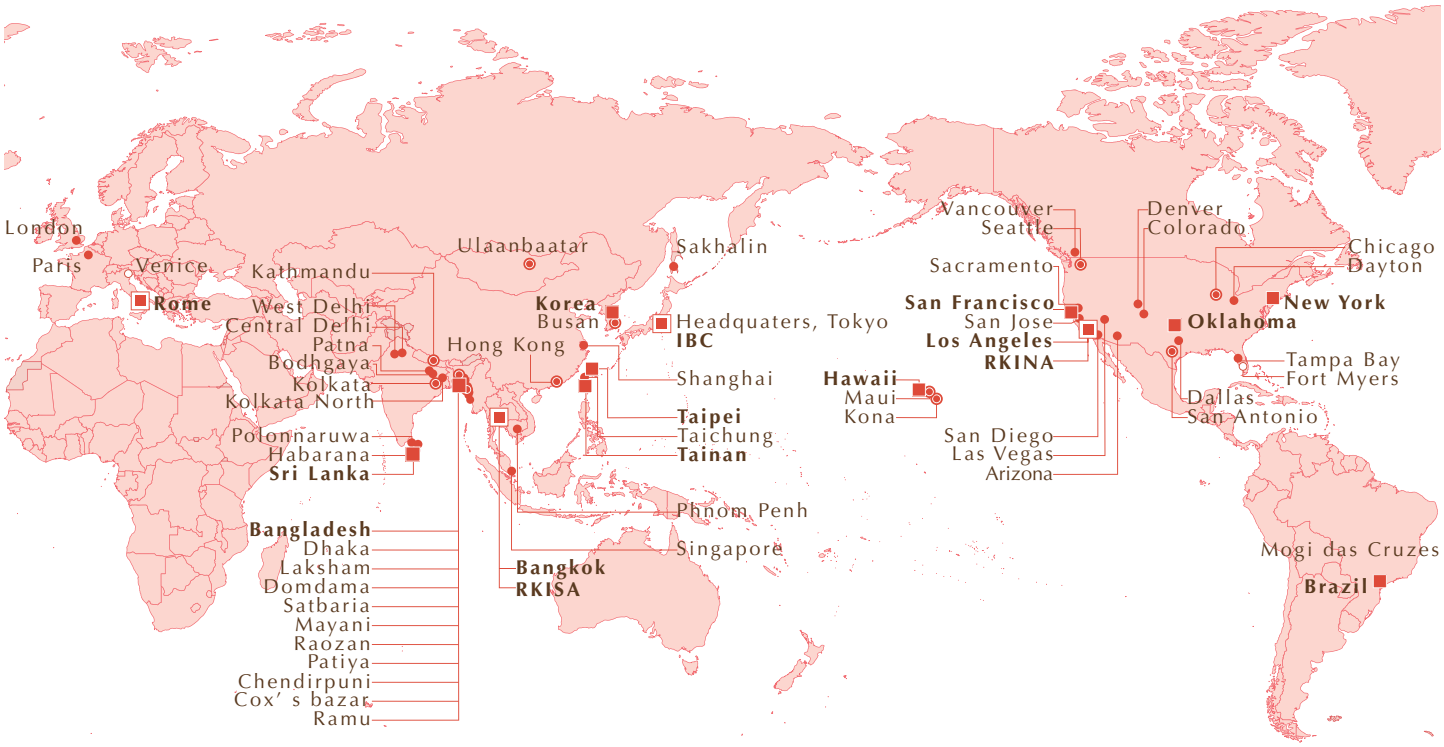
国際伝道のお役を拝命して、 開祖さまのご因縁により私たちに託された「立正佼成会が本となって法華経が世界万国に弘まる」という命題に向かって、 さらなる歩みを進めていきたいと思います。

その時代に相応しい人材を育成する＝世界中に菩薩を作る＝という立正佼成会の聖行に向け、 共に歩ませて頂きましょう！

国際伝道部長
齋藤 高市

齋藤高市　略歴

1957 年、東京都生まれ。立正佼成会学林本科を卒業後、世界宗教者平和会議（RfP）日本委員会出向を経て、立正佼成会本部で諸宗教協力・平和活動に 12 年間従事。この間、国際自由宗教連盟（IARF）事務局（ドイツ・フランクフルト）でも勤務。1998 年より国内外で支教区長・教会長を歴任。2017 年 12 月 1 日、国際伝道部長に就任。



RISSHO KOSEI-KAI INTERNATIONAL BRANCHES

Living the Lotus では、 皆さんのご意見・ご感想を募集しています。
お問い合わせは、 以下の E メールアドレスにお願い致します。
E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai
Overseas Dharma Centers 2017

Rissho Kosei-kai International
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1124 *Fax:* 81-3-5341-1224

Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)
2707 East First Street Suite #1 Los Angeles CA 90033 U.S.A
Tel: 1-323-262-4430 *Fax:* 1-323-262-4437
e-mail: info@rkina.org http://www.rkina.org

Branch under RKINA

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center
28621 Pacific Highway South, Federal Way,
WA 98003 U.S.A.
Tel: 1-253-945-0024 *Fax:* 1-253-945-0261
e-mail: rkseattlewashington@gmail.com
http://buddhistlearningcenter.org/

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio
6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, U.S.A.
P.O. Box 692148, San Antonio, TX78269, USA
Tel: 1-210-561-7991 *Fax:* 1-210-696-7745
e-mail: dharmasanantonio@gmail.com
http://www.rkina.org/sanantonio.html

Rissho Kosei-kai of Tampa Bay
2470 Nursery Road, Clearwater, FL 33764, U.S.A.
Tel: (727) 560-2927 *e-mail*: rktampabay@yahoo.com
http://www.buddhismtampabay.org/

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii
2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, U.S.A.
Tel: 1-808-455-3212 *Fax:* 1-808-455-4633
e-mail: info@rkhawaii.org http://www.rkhawaii.org

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center
1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, U.S.A.
Tel: 1-808-242-6175 *Fax:* 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center
73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona,
HI 96740 U.S.A.
Tel: 1-808-325-0015 *Fax:* 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles
2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, U.S.A.
Tel: 1-323-269-4741 *Fax:* 1-323-269-4567
e-mail: rk-la@sbcglobal.net http://www.rkina.org/losangeles.html

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas
Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas

Rissho Kosei-kai of San Francisco
1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, U.S.A.
Tel: 1-650-359-6951 *Fax:* 1-650-359-6437
e-mail: info@rksf.org http://www.rksf.org

Rissho Kosei-kai of Sacramento
Rissho Kosei-kai of San Jose

Rissho Kosei-kai of New York
320 East 39th Street, New York, NY 10016 U.S.A.
Tel: 1-212-867-5677 *Fax:* 1-212-697-6499
e-mail: rkny39@gmail.com http://rk-ny.org/

Rissho Kosei-kai of Chicago
1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056 U.S.A.
Tel : 1-773-842-5654 *e-mail:* murakami4838@aol.com
http://home.earthlink.net/~rkchi/

Rissho Kosei-kai of Fort Myers
http://www.rkftmyersbuddhism.org/

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma
2745 N.W. 40th Street, Oklahoma City, OK 73112 U.S.A.
Tel & Fax: 1-405-943-5030
e-mail: rkokdc@gmail.com http://www.rkok-dharmacenter.org

Rissho Kosei-kai, Dharma Center of Denver
1255 Galapago Street, #809 Denver, CO 80204 U.S.A.
Tel: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton
425 Patterson Road, Dayton, OH 45419 U.S.A.
http://www.rkina-dayton.com/

Risho Kossei-kai do Brasil
Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP,
CEP 04116-060 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446 / 55-11-5573-8377
Fax: 55-11-5549-4304
e-mail: risho@terra.com.br http://www.rkk.org.br

Risho Kossei-kai de Mogi das Cruzes
Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP,
CEP 08730-000 Brasil
Tel: 55-11-5549-4446/55-11-5573-8377

Rissho Kosei-kai of Taipei
4F, No. 10 Hengyang Road, Jhongjheng District,
Taipei City 100 Taiwan
Tel: 886-2-2381-1632 *Fax:* 886-2-2331-3433
http://kosei-kai.blogspot.com/

Rissho Kosei-kai of Taichung

Rissho Kosei-kai of Tainan
No. 45, Chongming 23rd Street, East District,
Tainan City 701 Taiwan
Tel: 886-6-289-1478 *Fax:* 886-6-289-1488

Rissho Kosei-kai of Pingtung

Korean Rissho Kosei-kai
6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
Tel: 82-2-796-5571 *Fax:* 82-2-796-1696
e-mail: krkk1125@hotmail.com

Korean Rissho Kosei-kai of Busan
3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
Tel: 82-51-643-5571 *Fax:* 82-51-643-5572

Branches under the Headquarters

Rissho Kosei-kai of Hong Kong
Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road,
North Point, Hong Kong, Republic of China

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar
15F Express tower, Peace avenue, khoroo-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia
Tel: 976-70006960 *e-mail:* rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Sakhalin
4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk
693005, Russian Federation
Tel & Fax: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai di Roma
Via Torino, 29-00184 Roma, Italia
Tel & Fax : 39-06-48913949 *e-mail:* roma@rk-euro.org

Rissho Kosei-kai of the UK
Rissho Kosei-kai of Venezia
Rissho Kosei-kai of Paris

International Buddhist Congregation (IBC)
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1230 *Fax:* 81-3-5341-1224
e-mail: ibcrk@kosei-kai.or.jp http://www.ibc-rk.org/

Rissho Kosei-kai of South Asia Division
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo, Japan
Tel: 81-3-5341-1124 *Fax:* 81-3-5341-1224

Rissho Kosei-kai International of South Asia (RKISA)
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax*: 66-2-716-8218
e-mail: thairissho@csloxinfo.com

Branches under the South Asia Division

Rissho Kosei-kai of Central Delhi
224 Site No.1, Shankar Road, New Rajinder Nagar, New Delhi,
110060, India

Rissho Kosei-kai of West Delhi
66D, Sector-6, DDA-Flats, Dwarka, New Delhi 110075, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata
E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North
AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059,
West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya Dharma Center
Ambedkar Nagar, West Police Line Road
Rumpur, Gaya-823001, Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Kathmandu
Ward No. 3, Jhamsilhel, Sancepa-1, Lalitpur,
Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh
#201E2, St 128, Sangkat Mittapheap, Khan 7 Makara,
Phnom Penh, Cambodia

Rissho Kosei-kai of Patna Dharma Center
Rissho Kosei-kai of Singapore

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkapi, Huaykhwang
Bangkok 10310, Thailand
Tel: 66-2-716-8141 *Fax:* 66-2-716-8218 *e-mail:* info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei-kai of Bangladesh
85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
Tel & Fax: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai of Dhaka
House#408/8, Road#7(West), D.O.H.S Baridhara,
Dhaka Cant.-1206, Bangladesh
Tel: 880-2-8413855

Rissho Kosei-kai of Mayani
Mayani(Barua Para), Post Office: Abutorab, Police Station: Mirshari,
District: Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Patiya
Patiya, sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Domdama
Domdama, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Cox's Bazar
Ume Burmese Market, Main Road Teck Para, Cox'sbazar, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Satbaria
Satbaria, Hajirpara, Chandanish, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Laksham
Dupchar (West Para), Bhora Jatgat pur, Laksham, Comilla,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Raozan
West Raozan, Ramjan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Chendirpuni
Chendirpuni, Adhunagor, Lohagara, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai of Ramu

Rissho Kosei Dhamma Foundation, Sri Lanka
No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
Tel: 94-11-2982406 *Fax*: 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Habarana
151, Damulla Road, Habarana, Sri Lanka

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa

Other Groups

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai